

本年度の重点目標

- ・校訓『誠実・忍耐・努力』の実践
- ・「主体的で対話的な深い学び」を実現するための教育活動の展開
- ・社会の変化に柔軟に対応しながら、国際的視野の獲得と同時に地域に根ざした魅力ある学校づくりの推進
- ・生徒一人ひとりを大切に、生徒の適正に応じた指導
- ・生活習慣および規範意識を身につけ、他者と協同していくことのできる生徒の育成

領域	重点評価項目	学年末総合評価		
		中間評価(10月) 自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	a 学校の教育方針や教育目標、教育活動について、保護者や地域社会に対して適切かつ分かりやすい説明を行っている。	A	A	A
	b 学校は、『地域に根ざした魅力ある学校』を目指し、地域との連携を生かした特色ある学校づくりを進めている。	A	A	A
2 学習指導	a 授業時間を適切に確保し、シラバスに基づく計画的・体系的な指導と、その実効性を高めるための工夫・改善に取り組んでいる。	A	A	A
	b ICT機器を効果的に活用し、「協同的な学び」の実践を通じて、生徒同士が互いに学び合う授業が行われている。	A	A	A
3 生活指導	a 挨拶や時間を守るなどの指導を通じて、生徒の基本的な生活習慣の定着を図っている。	A	A	A
	b 相手を思いやる心を育み、互いの信頼関係を深めることで、良好な人間関係の形成を促す指導を行っている。	A	A	A
	c アンケートや日常的な対話を通じて、いじめの早期発見に努め、生徒の課題解決に向けて迅速かつ適切な対応を行っている。	A	A	A
4 進路指導	a 計画的な進路指導や講習、進路LHRを通じて、生徒の進路希望を実現しようとする意欲を高めている。	A	A	A
	b 進路情報の提供や模擬試験の活用を通じて、生徒の学力を把握し、進路実現に向けた的確な指導を行っている。	A	A	A
5 特別活動等	a 部活動や生徒会・委員会活動を活性化し、自主的な活動を通じて生徒の主体性を育成している。	A	A	A
	b 生徒の発達段階や学年に即したLHR活動を計画的に実施し、内容の充実を図っている。	A	A	A
6 学校図書館	a 本や図書館に関する内容をわかりやすく伝えることで、生徒の利用を促進し、気軽に利用できる環境づくりに努めている。	C	A	B
	b 豊かな感性を育てるため、生徒に読書習慣の確立に努めている。	B	A	B
7 保健 安全指導	a 健康・安全に対する意識を高めるため、適切な機会に情報提供や指導に努めている。	A	A	A
	b 事故や怪我、病気が発生した際には、迅速に対応するとともに、保護者の連絡を適切に行っている。	A	A	A
8 人権教育	a あらゆる機会を通じて、命の尊さとその大切さを認識させる教育を実践している。	A	A	A
	b 一人ひとりがお互いを尊重し、信頼し合えるクラスや学校づくりに努めている。	A	A	A
	c 人権統一LHRや講演会などを充実させ、生徒の人権意識を高める指導に努めている。	A	A	A
9 環境教育	a ごみの分別や資源のリサイクル、節電などの取組を通じて、環境保全と持続可能な社会づくりへの意識を高めている。	A	A	A
	b 日常的な清掃および地域との連携による清掃活動を通じて、生徒の美化に対する意識の育成に努めている。	A	A	A
10 事務・管理	a 教育活動を円滑に実施するため、施設・設備の適切な整備と安全確保に継続的に努めている。	A	A	A
	b 看護科やスポーツ・情報系コースなど、本校の特色ある教育内容を十分に活かせるよう、関連設備の充実努めている。	A	A	A
11 その他 学校の取組	a ICT機器を生徒・保護者・教職員間の情報共有と連携を図るコミュニケーションツールとして、利活用を推進している。	A	A	A
	b 広報活動を積極的に行い、教育活動や生徒の学校生活に関する情報を保護者に対して発信している。	A	A	A

注) ・評価表の見方: 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
 10月 中間評価(自己評価)の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)ABCDの4段階評価で示す。
 3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)ABCDの4段階で示す。
 ・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、生徒・保護者の自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
 ・ABCDの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度75%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度50%以上75%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度25%以上50%まで)はC、達成できていない場合(達成度25%未満)はDとする。